

第41回全国中学生人権作文コンテスト広島県大会

第41回全国中学生人権作文コンテスト広島県大会(広島法務局、広島県人権擁護委員連合会主催、県教委、中国新聞社など後援)の入賞作品20点が決まった。県内186校から1万5711点の応募があった。最優秀賞2作品のうち広島法務局長賞に選ばれた東広島市立八本松中1年北村栞一さん(12)の作品を紹介する。

僕は、小学校三年生の夏、急にであった。

言葉を話すことが難しくなった。それがいよいよ、僕は学校へ行くことが出来なくなった。

自分でもなぜかわからなかった。でも、学校に行く、友達から話しかけられる、家で母と一緒に返事の練習をした。でも、学校に行く、友達から話しかけられる、家で母と一緒に返事の練習をした。でも、学校に行く、友達から話しかけられる、家で母と一緒に返事の練習をした。でも、学校に行く、友達から話しかけられる、家で母と一緒に返事の練習をした。



「違いを認める」 最優秀賞 広島法務局長賞

東広島市立八本松中1年 北村栞一さん

僕は、小学校三年生の夏、急にであった。言葉を話すことが難しくなった。それがいよいよ、僕は学校へ行くことが出来なくなった。自分でもなぜかわからなかった。でも、学校に行く、友達から話しかけられる、家で母と一緒に返事の練習をした。でも、学校に行く、友達から話しかけられる、家で母と一緒に返事の練習をした。でも、学校に行く、友達から話しかけられる、家で母と一緒に返事の練習をした。

くれることを願う。